

オンライン授業 青森聾学校でも

新型コロナウイルス感染症対策として導入が進むオンラインの遠隔授業が、障害のある子どもたちが通う青森県内の特別支援学校でも活用されている。県立青森聾学校(青森市、中谷えり子校長)では、臨時休校期間中にビデオ会議システム「Zoom(ズーム)」を利用。学校と家庭をインターネットでつなぎ、耳が聞こえない児童、生徒に対しても映像や文字を通して円滑にやりとりできた。学校側は休校期間以外でも、生徒の学習や健康状態を確認できる方法として手応えを感じている。(里村静)

遠隔授業は、情報通信技術(ICT)を活用した教育活動に詳しく、マイクロソフト社が認定する「教育インベーター」でもある高等部の阿保孝志朗教諭が主導。臨時休校が決まった4月17日から2日間準備し、通信環境が整った高等部と小学部を対象に行った。

配信する教員は、カメラの前で手話をする人、文字を打ち込む人、パソコンを操作する人



青森聾学校での遠隔授業の様子。中央の教員が手話を用いて会話し、手前の教員が字幕を入力する＝1日、青森市

休校時以外の活用模索

の3人態勢。通信環境が悪いと映像が途切れ、手話が分かりにくいことがあるため、発言を字幕のように文字でも表示している。

5月1日、休校中最後の遠隔授業を実施。高等部では朝と夕の1日2回、生徒が現況報告や勉強に関する質問をするホームルーム形式を採用している。

在籍する生徒10人中9人が自宅から参加。教員が「今日は何をしておこなったか教えて」と問いかけると、生徒はそれぞれが持つタブレットなどの画面を通して、手話で「弟と一緒に遊んだ」「外を走った」などと報告していた。

3年の水谷颯(はつ)さんは取材に「遠隔授業の時間が決まっているので、家にいるのに学校のように大変」と苦笑を語った。

発言を字幕表示、円滑にやりとり

るる合入(施て型止が踏しフけ